

制作時の困った！ こんなときはどうしたらよい？

XHTML+CSSでのWeb制作時には、ときとして「あれ？意図した通りにならない」「こんなときはどうするんだろう？」「どっちのCSSプロパティを使うのか？」といったことが起こります。ここではその中でもちょっと頭に入れておきたい事例をいくつか取り上げて解説してみましょう。

スタイルを適用しているはずなのに 反映されない

CSSを使ったデザインやレイアウトを行う際、自分では指定しているはずのスタイルがブラウザの画面に結果として表示されないといったことがあるかもしれません。実際に作業していて、スタイルが反映されない原因はいくつか考えられます。まず、同じセレクタが複数回出てきている場合です。CSSの適用順の項で解説しましたが、CSSには読み込み順が関係します。同名のセレクタが存在する複数のCSSファイルを読み込んでいたり、単一のCSSファイルであっても同名のセレクタが前後で存在していることも考えられます。とくに作業になれないうちは、知らず知らずのうちに同名セレクタを複数作っていた、ということも大いにあり得ます(01)。また、セレクタは1つしかないのにスタイルが適用されない場合もあります。これは大体的場合、灯台もと暗しということで「プロパティ名のスペルミス」「値を全角

02

スタイルが適用されない場合～スペルミスなど

■ CSS の例	
body { color: #333333; background-color: #ffffff; }	h1 { 値がおかしい color: #33333333; font-size: 3em ←「;」が抜けている margin-bottom: 2 p x ; } 全角で入力されている

よくありがちなミスの例。スペルミスだけでなく、値の指定が違う、セミコロンが抜けている、全角文字で入力しているといったことでスタイルは適用されない

03

■印刷用 CSS の指定の仕方

```
<head>
<link rel="stylesheet" href="screen.css" media="screen, tv" />
<link rel="stylesheet" href="print.css" media="print" />
</head>
```

link要素に対してmedia属性の値に「print」を使ってデバイスを指定します。参照先は、印刷用に用意したCSSファイルを指定

01

スタイルが適用されない場合 ～同名のセレクタが複数ある

```
■ a.css
body {
margin: 0;
padding: 0;
font-size: 75%;
}

■ b.css
body {
font-size: 100%;
}

■ sample.html
<head>
<link rel="stylesheet"
href="a.css" />
<link rel="stylesheet"
href="b.css" />
</head>
```

CSSには読み込み順が関係します。複数のCSSファイルのそれぞれに同名のセレクタがある場合、後から読み込まれた方で上書きされる。単一のCSSファイル中に同名セレクタがあれば、後から出現したほうで上書きされるので注意

で入力している」「複数のスタイルの区切りの; (セミコロン) 忘れ」「スタイルを囲む [...] を消していた」といった場合が多いでしょう(02)。オーサリングソフトだけで作業している場合は、このようなことは起こりにくいといえますが、ちょっとした修正をテキストエディタなどで行う場合は注意したいところです。最後に考えられるのが、スタイルが反映されないのに指定している、といった場合です。例えば、段落中のテキストにwidthやheightといったプロパティは適用されません。このようにスタイルを適用したくても適用できないものというのが存在しますので、プロパティの適用範囲というものを覚えておきましょう。

印刷用のスタイルは どうやって指定するの？

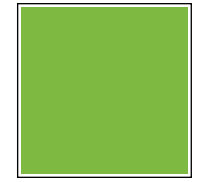
Webページをプリントする際、従来Webサイトの多くで取られていたのは、広告などを取り除いた印刷用のWebページを別途用意しておく方法でした。システム側で自動で生成されるならともかく、大量のWebページが存在するのに手でファイルを用意しなければならない場合は大変です。そのような場合は印刷用のCSSを用意しておく方法が一番簡単でしょう。印刷用のCSSでは、ページ内の不要なオブジェクトを取り除いたり、A4サイズに収まるようにコンテンツを調整したり、背景色を白にして文字サイズを大きくしたりといったことが考えられます。このようなCSSファイルを用意したとして、視覚的なブラウザの表示用のCSSと印刷時を振り分けるには、head要素内でlink要素にmedia属性を追加して値に「print」を指定します。たったこれだけのことで、ブラウザからの印刷指示が出た場合には自動的に印刷用のスタイルが適用されて出力されます(03)。

marginとpadding、 どちらを使うの？

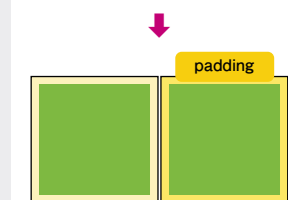
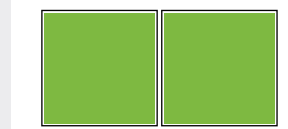
よく情報ブロックとなるボックスにmarginとpaddingのどちらを指定すればよいのかわからないといった質問をうけることがあります。これはborderプロパティまでを含めて考えてみると、その使い分けに悩むことはないでしょう。では、簡単に言葉で解説してみます。まず、隣り合って並んだ箱が2つあったとして、それぞれの箱にはその周囲に見えないボーダーが付いていると仮定します。箱とボーダーの間にスペースが必要であれば「padding」、つまりボーダーの内側に付くスペースです。このスペースにはボーダーと箱の間に背景色がついてきます。では、隣り合う箱同士でスペースが必要であればどうでしょう？このときは「margin」、つまりボーダーの外側に付くスペースということになります。この場合は、その隣り合う箱の間のスペースに背景色はつきません。この考え方は、実際のレイアウト作業時にも有効です。暫定的にボックスに1px程度のボーダーを指定してレイアウトをすることで、paddingを使うべきかmarginを使うべきかの答えがでてくるでしょう。ボーダーまでを含めてオブジェクトとして考えておけば、背景色の必要性、隣り合うオブジェクトとの関係を考慮すれば、自ずとどちらを使った方がよいかが決まってくるといえます(04)。

04

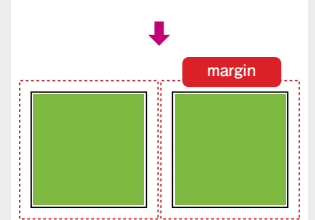
marginとpaddingの考え方



オブジェクト(箱)の周囲に見えないボーダーがあると考えると...



ボーダーとオブジェクトの間にスペースが必要であればpadding、ボーダーとオブジェクトの間にはそれぞれの背景色がでてくる



オブジェクト同士の間にスペースが必要であればmargin、この場合、スペース部分の背景色は親要素に指定されている背景色

どちらを使えばよいかかわからない場合は、一度borderプロパティを有効にしてから考えてみるとよい